

オープンサイエンスと持続可能な未来に向けた
触媒としての大学

執筆者紹介

Karin Markides カリン・マルキデス

【経歴等】

沖縄科学技術大学院大学エグゼクティブアドバイザー

沖縄科学技術大学院大学名誉学長

スウェーデン・チャルマース工科大学およびアルメニア・アメリカン大学で学長兼理事長を歴任し、OISTは同職として3校目。デンマーク工科大学(DTU) 理事会議長のほか、各種企業での取締役も経験。ウプサラ大学分析化学工学部門の元主任教授として、30名以上の博士課程学生を指導し、学術誌への掲載論文数は約300本。スウェーデン王立工学アカデミー(IVA)および同科学アカデミー(KVA)の終身会員に選出され、ノーベル化学賞の選考にも関与。スウェーデン・ストックホルム大学にて博士号を取得。



世界は現在、多くの深刻な課題に直面しています。40の国や地域が武力衝突や内乱、暴力的な状況にあり^{注1}、過度な政治的分断によって、持続可能な未来に向けた問題解決が困難になっています。大学もまた、こうした不安定な時代の影響を免れることはできません。

このような状況の中で、大学には、高等教育の本質的な価値を守りながら、市民社会と歩調を合わせる信頼できるステークホルダーとしての役割が求められています。さらに、大学が新たな役割として期待されているのが、オープンサイエンスの担い手となることです。多層的な協力や、科学を通じた国際協力(サイエンス・ディプロマシー)を通じて、地球規模から地域レベルまでの課題解決を後押しすることが重要です。

大学が担うべき役割は、大きく三つに整理できます。第一に、研究と教育を通じた学術と知の創造。第二に、次世代の研究者や将来のリーダーの育成。そして第三に、研究成果を社会で活用できる知識へとつなぎ、広く共有・応用していくことです。デジタル技術や生成AIを活用し、社会との双方向の関わりを深めることで、大学は持続可能で強靱な社会の実現に、より大きく貢献できるようになります。

オープンサイエンスとは、研究データや成果を開かれた形で共有する仕組みにとどまらず、学術界、産業界、市民社会が協力するあり方そのものを見直す文化的な転換を意味します。大学が幅広いリソースをもとに分野や立場を越えてオープンサイエンスを加速させることで、研究室で生まれた発見や産業界とのオープンイノベーションが、より円滑に結びつき、社会に具体的な価値をもたらします。

沖縄科学技術大学院大学(OIST)では、持続可能な未来に向けて、オープンサイエンスとオープンイノベーションを積極的に推進しています。学部や学科の枠を設けない学際的な組織モデル(図参照)のもと、各教員が率いる93の研究ユニットが、厳格な国際的事後評価に裏付けされた高い信頼に基づく資金支援を受けながら、分野を越えた自由で機動的な研究を展開しています。

研究活動にとどまらず、OISTではオープンサイエンスの考え方を、イノベーションや社会連携の基盤にも組み込んでいます。共同研究のための物理的・知的空間、世界中から研究者を迎えるプログラム、起業家支援、実社会での実証フィールドなどを通じて、研究成果を責任ある形で社会へ還元しています。こうした触媒としてのオープンサイエンスによって、大学が研究・教育・パートナーシップを連動させ、複雑な社会課題に立ち向かいながら新たな科学的な発見を加速させます。

21世紀の大学は、知識の創出と共有を通じて社会と信頼関係を築き、人々が参加し、その恩恵を受けられる場を提供する存在であり続けることが求められています。

注1: 現在戦争状態にある国々 2026年版
(Countries Currently at War 2026)

